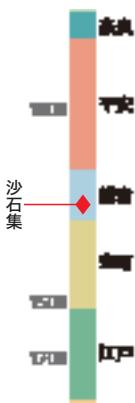


児の飴食ひたること



ある山寺の坊主、慳貪なりけるが、飴を治してただ一人食ひけり。欲深くけちであつた者が、飴を作つて

よくしたためて、棚に置き置きしけるを、一人ありける小児に食はしつかりと管理して、

1 小児 小さい児。「児」は、学問や行儀作法を習得するために寺院に預けられた少年。

せすして、「これは人の食ひつれば死ぬる物ぞ。」と言ひけるを、こ

「これは人が食べてしまふと死ぬものだぞ。」

の児、あはれ、食はばや、食はばやと思ひけるに、坊主他行の隙に、

ああ、食べたいものだ、食べたいものだ

棚より取り下ろしけるほどに、うちこぼして、小袖にも髪にもつけて

たりけり。日ごろ欲しと思ひければ、一、二杯よくよく食ひて、坊

しまつた。

(児は飴を) 食べてみたいと思つていたので、十分

2 小袖 袖丈の短い着物。

3 水瓶 仏具。飲用や手洗い用に水を入れるもの。

4 雨垂りの石 土に穴があかないように、軒先の雨だれの落ちる所に置いた石。

主が秘藏の水瓶を、雨垂りの石に打ち当てて、打ち割りておきつ。割つておいた。

大事にしていた

坊主帰りたりければ、この児、さめほろと泣く。「何事に泣くぞ。」

さめざめと

と問へば、「大事の御水瓶を、あやまちに打ち割りて候ふ時に、いか

いるのだ。」

なる御勘當ごかんとうがあらんずらんと、口惜しくおぼえて、命生きててもよしめを受けることになろうかと、仕方が

なしと思ひて、人の食へば死ぬと仰せられ候ふ物を、一杯食へどもないと思い、

死なず、二、三杯まで食べて候へども、おほかた死なず。果ては小袖

食べましたが、いっこうに死にません。

あげくのはてに

につけ、髪につけてはべれども、いまだ死に候はず。」とぞ言ひける。まだ死にません。

飴は食はれて、水瓶は割られぬ。慳貪の坊主、得るところなし。

児の知恵ゆくこそ。学問の器量も、むげにはあらじかし。
尋常ではない。

才能もきっと並大抵ではないことだろうよ。